

スクール・パリ協定
＜詳細編＞

解説④COP31の注目トピック：化石燃料からの転換／森林破壊の停止

2026年10月27日

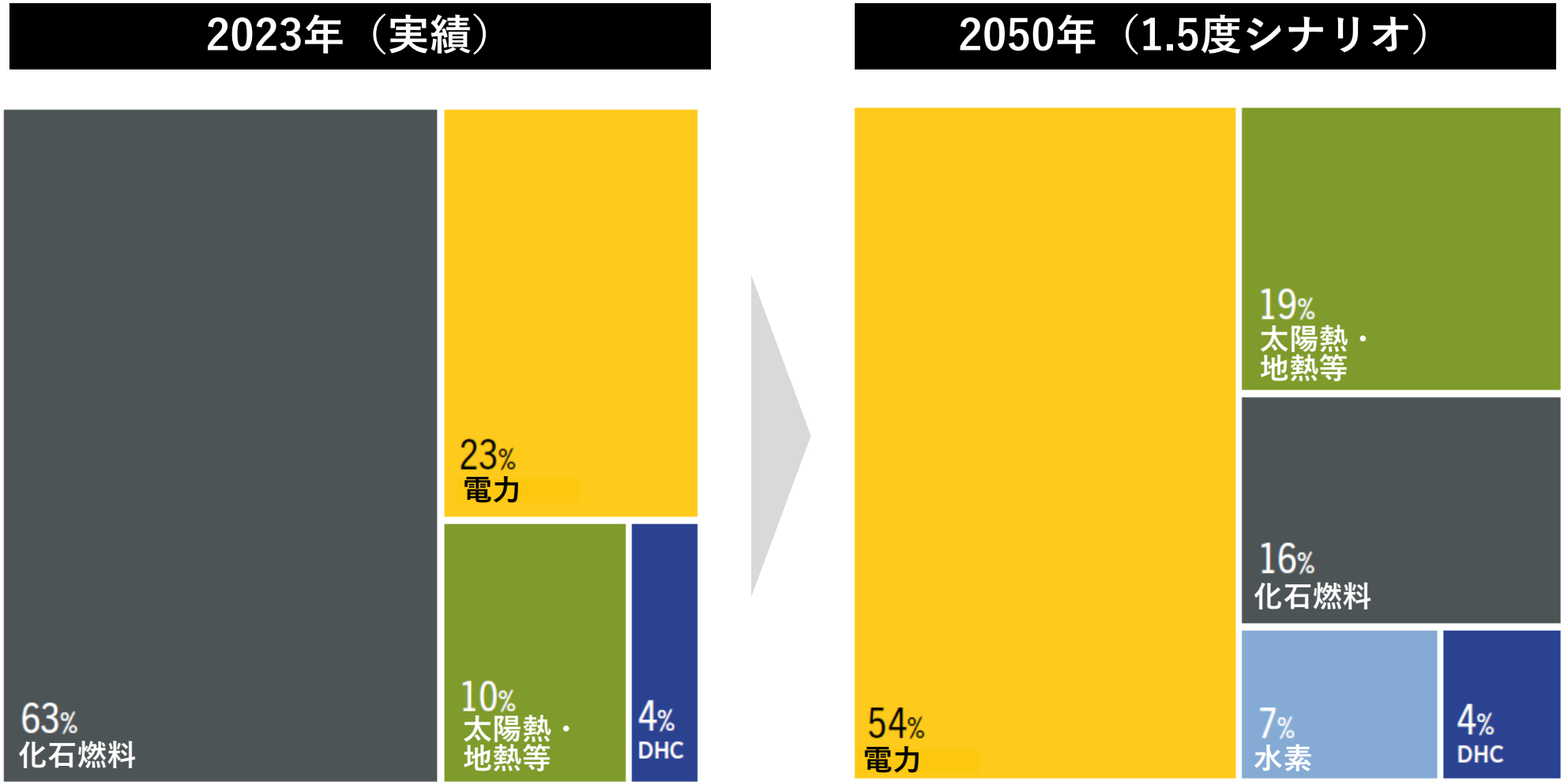
WWFジャパン　森林グループ　兼
気候エネルギーグループ　田沼俊剛

© 1st Conference on TAFF/ Colombia and Netherlands

化石燃料からの転換

化石燃料の転換と電化は、コインの表裏

◆最終エネルギー消費に占めるエネルギー種別割合



注）
電力：再エネ由来および化石燃料由来が含まれる
DHC：地域冷暖房

出典： IRENA (2026) Transitioning away from fossil fuels: A roadmap powered by renewables, electrification and grid enhancementよりWWFジャパン和訳

（参考）ロードマップ策定に至る経緯

◆ロードマップ策定に至るパリ協定の経緯

COP26グラスゴー気候合意
（2021年）

- 正式決定として、排出削減対策を講じていない石炭火力発電の「段階的削減（phase-down）」に言及
- 対象は石炭火力に限定され、化石燃料全体の転換を求めていない

COP28 第一回GST決定
（2023年）

- 正式決定として、**「化石燃料からの転換（transitioning away from fossil fuels、通称TAFF）」を明記**
- しかし、国別の廃止期限や実施計画までは合意されていない

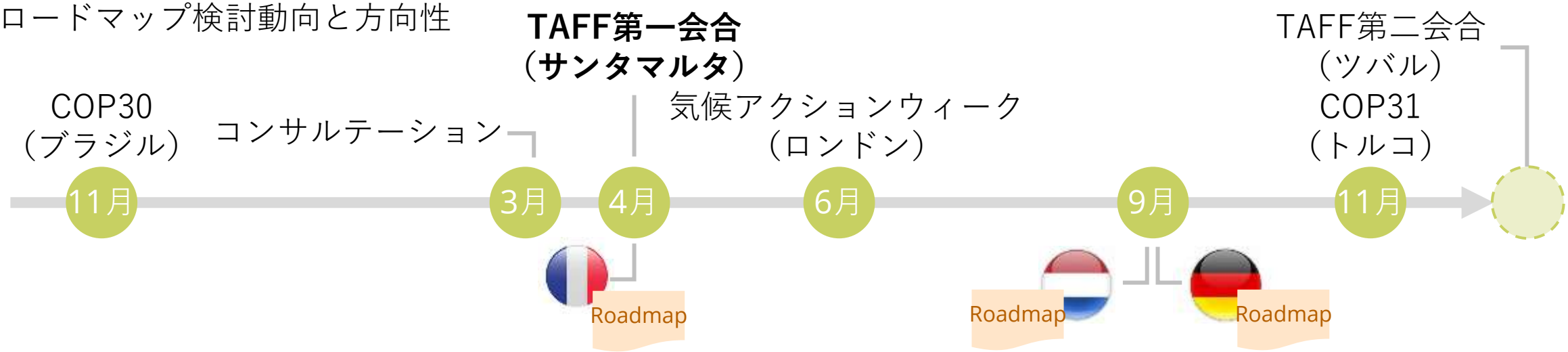
COP30 議長国ロードマップ
（2025年）

- 化石燃料転換ロードマップの策定プロセスを正式なCOP合意に盛り込む提案があったが、合意には至らなかった
- 代わりに議長国主導ロードマップ策定に着手

出典：COP決定文書などを基にWWFジャパン作成

化石燃料転換をテーマにサンタマルタ会議が開催

◆ロードマップ検討動向と方向性



- TAFF第一会合（サンタマルタ会議）では、57カ国が参加
  （世界GDPの1／3以上、化石燃料の需要3割、供給2割に該当）
- 転換を妨げる構造的な障壁を明らかにし、各国一律ではなく多様かつ公正な移行経路を提示
  1. *国際協力による転換の推進*
  2. *世界的な行動の加速と政策の一貫性*
  3. *国別・地域別ロードマップの具体化*
  4. *化石燃料依存からの脱却と転換資金の拡大*
  5. *貿易・産業構造の脱炭素化とグリーン経済への移行*

注目ポイント：
- **交渉外における機運の高まり**
- **電化を中心とした実効策が、化石燃料転換と結びつくか**
- **COP30-31-32議長国の連携**
- **転換に必要な資金・国際協力の具体化**

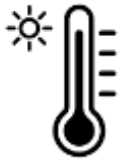
出典：TAFF第一会合レポート、WWFネットワーク会議などを基にWWFジャパン作成

森林破壊の停止

森林は気候調整において重要な役割を果たしている

◆気候・炭素調整において森林が果たす役割（一例）

森林保全によるポジティブな効果 ＋



1℃～

熱帯林が貢献する世界気温における抑制温度



12Gt

森林が吸収する炭素量は、中国の年間排出量分に相当（CO2換算）

森林破壊によるネガティブな影響 －



4Gt

森林破壊で放出される炭素量は、米国の年間排出量に匹敵（CO2換算）



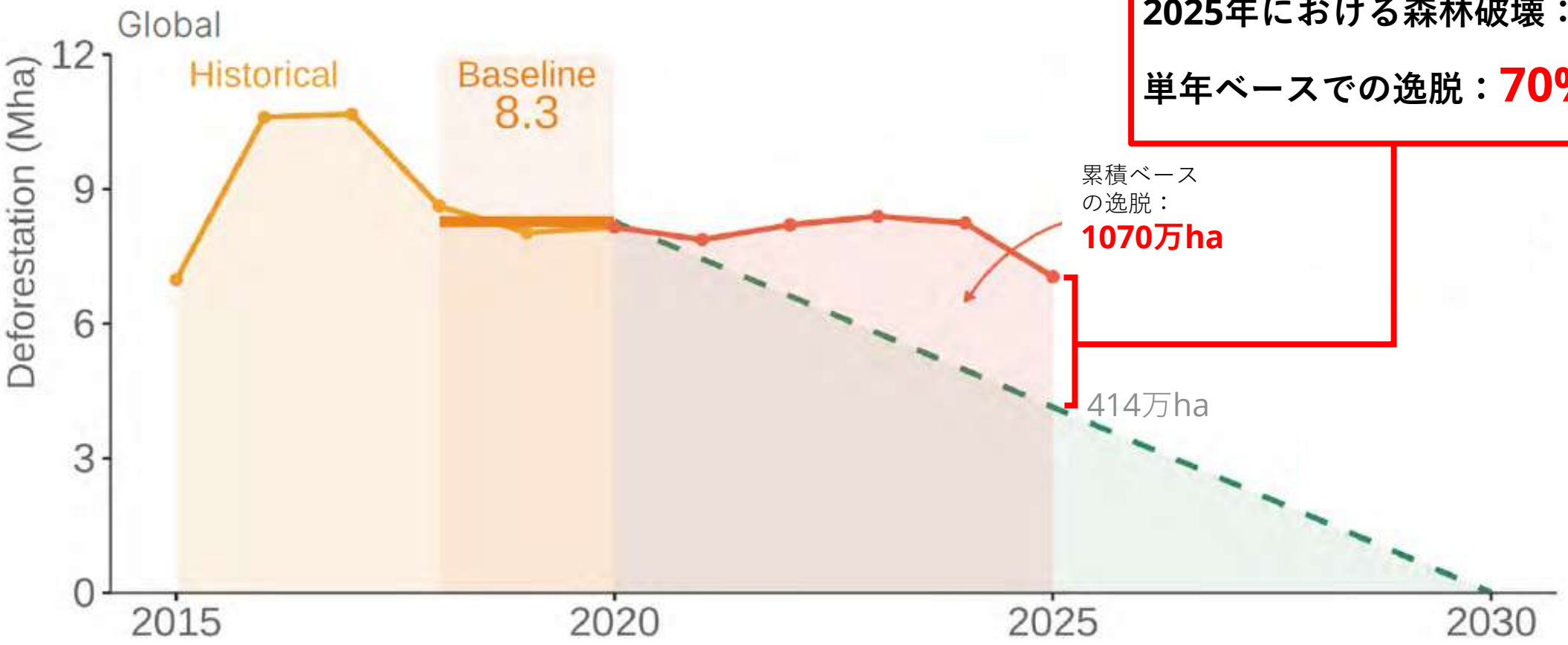
10%

森林破壊が世界のGHG排出量に占める割合

出典：The Unseen Effects of Deforestation: Biophysical Effects on Climate（2022）、Global Carbon Budget（2024）、IPCC AR6

2030年に掲げる森林破壊ゼロから大幅に逸脱

◆森林破壊の規模、および2030年までの森林破壊ゼロ経路からの逸脱



出典： Forest Declaration Assessment 2026を基にWWFジャパンにて一部改訂（https://forestdeclaration.org/wp-content/uploads/2026/10/Assessment2026.pdf）

（参考）ロードマップ策定に至る経緯

◆ロードマップ策定に至るパリ協定の経緯

パリ協定第5条
（2015年）

- 森林を吸収源および貯蔵庫と位置づけ保全を促す
- ただし、2030年までの森林減少の停止と反転への言及なし

COP26グラスゴー宣言
（2021年）

- 2030年までの森林減少・土地劣化の停止・反転を目指す
- ただし、自主的な政治宣言のため条約上の法的義務はなく、採択された決定文書上の記載ではない

COP28 第一回GST決定
（2023年）

- 2030年までの森林減少・劣化の停止と反転を改めて強調
- 各国に法的義務を課すものではないが、**パリ協定締約国会議の正式決定文書で初めて言及（GST決定文書 第33/34段落）**

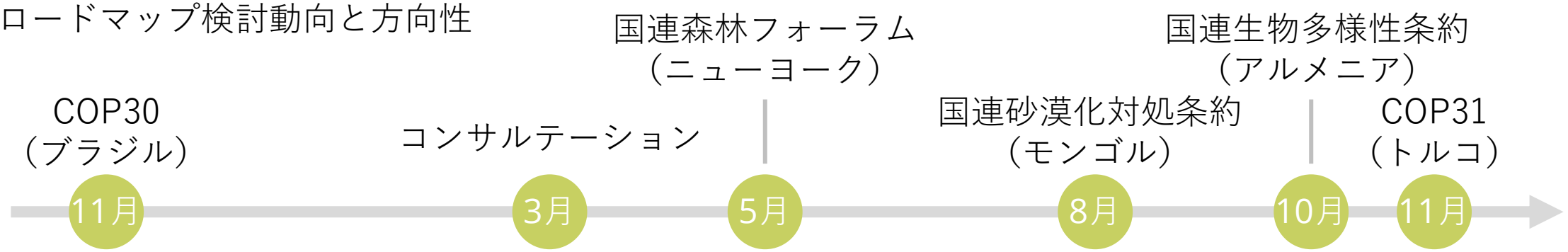
COP30 議長国ロードマップ
（2025年）

- 「森林破壊・森林劣化の停止・反転に関するロードマップ」
- 既存の国際合意を踏まえ、2030年目標に向けた実施を後押しする議長国イニシアチブ

出典：COP決定文書などを基にWWFジャパン作成

ロードマップを受け、企業は森林破壊リスクの確認を

◆ロードマップ検討動向と方向性



＜ロードマップ文書の構成案＞

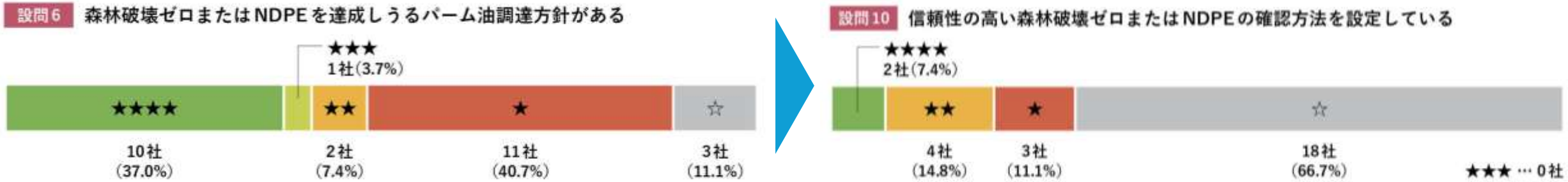
1. 序文（Forward）
2. 導入（Introduction）
3. 国内施策の枠組み（National efforts to halt and reverse deforestation and forest degradation）
4. 国際的な枠組み（International framework for supporting national implementation）
5. 資金と市場（Finance and markets）

注目ポイント：

- **ロードマップでの示唆を実行に繋げる仕組み**
- **「4.国際的な枠組み」では、貿易を通じた森林破壊リスクが主要テーマとなる予定**
- **企業は、生産地をトレースし、森林破壊リスクの確認をすることでGHG削減対策となる**

出典：FAO（2026）World Forest Week資料を基にWWFジャパン作成

確認のポイントは「何を実行しているか」



27社中10社が十分な方針を持つが、うち方針に適合する確認方法を設定しているのは2社のみ

➡開示は増えてきたが、実践にはまだ課題がある

【企業】

✓方針/目標には、適正なKPIの設置が重要

（森林破壊ゼロの確認はマスバランス100%への切替だけでは不足）

【金融機関】

✓開示の有無だけではなく、リスクを把握・管理できているかを問う

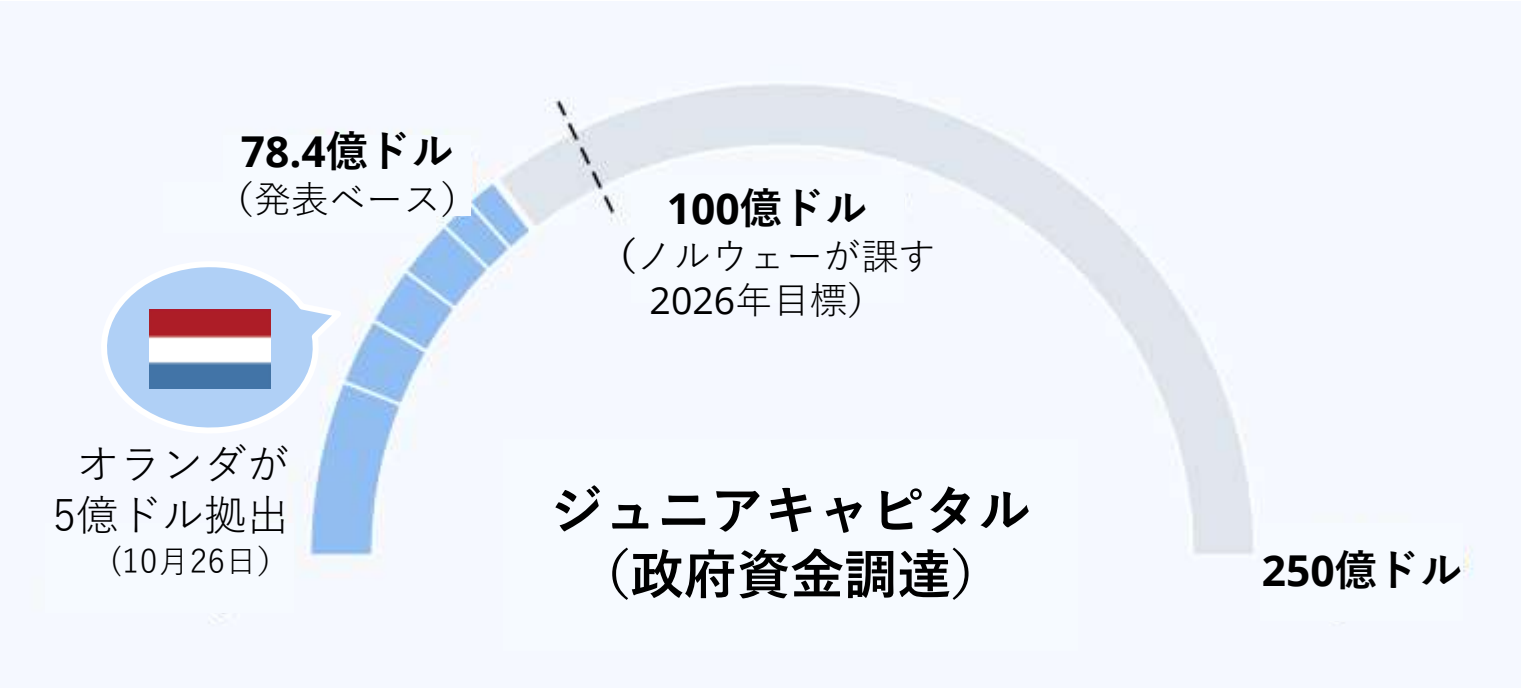
（例：トレーサビリティは確認できているか／どう確認しようとしているか／達成率は　など）

目標設定から実践へ

出典：WWFジャパン（2026年9月）「ネイチャーポジティブに向けたパーム油調達におけるTNFD開示ベンチマーク調査」

TFFFでは、年内に100億ドルの調達を目指している

◆政府資金調達における目標と調達実績（26年10月27日現在）



- 現時点で、調達実績は78.4億ドル（発表ベース）
- ノルウェー政府の拠出（30億ドル）を得るためには、年内に**100億ドルの調達が条件**
- COP31は資金調達が佳境となる見込み

出典：TFFFウォッチ 投資トラッカーを基にWWFジャパン和訳・改訂

まとめ

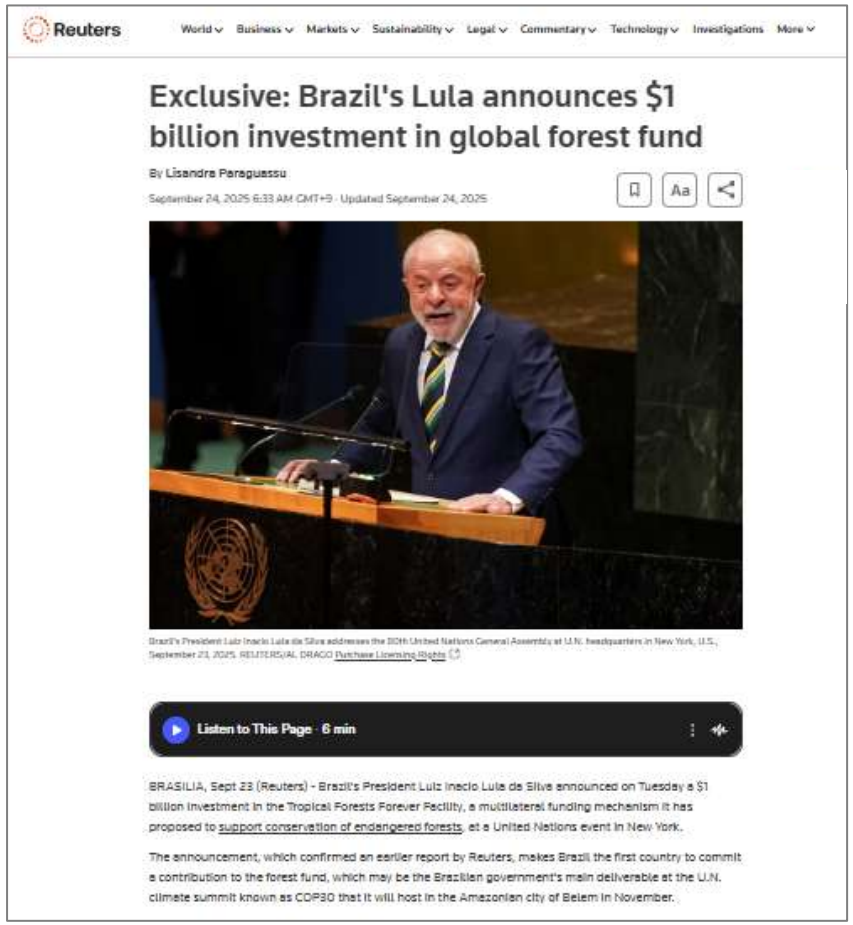
- 問われているのは「やるか否か」ではなく、「どう実現するか」
- 電化にとどまらず、エネルギー転換全体の加速を（化石燃料からの転換、再エネ3倍、省エネ2倍）
- 森林破壊の停止は、気候変動対策と生物多様性保全の双方を担う鍵。企業はサプライチェーン上流をトレースし、森林破壊リスクの確認を

together possible™

WWF® and ©1986 Panda Symbol are owned by WWF. All rights reserved

参考：TFFFの概要

ブラジル政府は最初の出資国として、
10億米ドルの出資を発表（2025年9月）



Reuters

World Business Markets Sustainability Legal Commentary Technology Investigations More

Exclusive: Brazil's Lula announces $1 billion investment in global forest fund

By Lisandra Paraguassu

September 24, 2025 6:33 AM GMT+9 · Updated September 24, 2025

Aa

Brazil's President Luiz Inacio Lula da Silva addresses the 80th United Nations General Assembly at U.N. headquarters in New York, U.S., September 23, 2025. REUTERS/AL DRAGO Purchase Licensing Rights

Listen to This Page · 6 min

BRASILIA, Sept 23 (Reuters) - Brazil's President Luiz Inacio Lula da Silva announced on Tuesday a $1 billion investment in the Tropical Forests Forever Facility, a multilateral funding mechanism it has proposed to support conservation of endangered forests, at a United Nations event in New York.

The announcement, which confirmed an earlier report by Reuters, makes Brazil the first country to commit a contribution to the forest fund, which may be the Brazilian government's main deliverable at the U.N. climate summit known as COP30 that it will host in the Amazonian city of Belem in November.

◆TFFFに関する概要

背景	2023年のCOP28（ドバイ）でブラジル政府が提案し、COP30での正式立ち上げを予定
目的	世界の**熱帯・亜熱帯湿性広葉樹林（TSMBF）**の保全・再生を恒久的な形で財務的に支える
目標額	1,250億米ドル
調達方式	公的資金と民間資金の**ブレンデッドファイナンス**（スポンサー資本の250億米ドル＋債権発行の1,000億米ドル）
支払原資	調達原資の投資運用から得られる**利息や収益部分を原資**に、予測可能・**恒久的な支払い**を行う
支払方法	「森林維持報奨金」として**保全された森林**（Standing Forest）や**再生林**（Restored Eligible Forest）**の面積をベースに毎年実施**。火災劣化や森林損失の場合は減額
受益国	熱帯林国に指定された国々（ブラジル、インドネシア、コンゴ民主共和国、コロンビア、マレーシア、ガーナ等）
先住民保護	支払い全体の**最低20%を先住民・地域コミュニティへ**直接分配する

出典：ロイター通信記事（25年9月24日）を引用、TFFFコンセプトノートv3.1を基にWWFジャパン作成

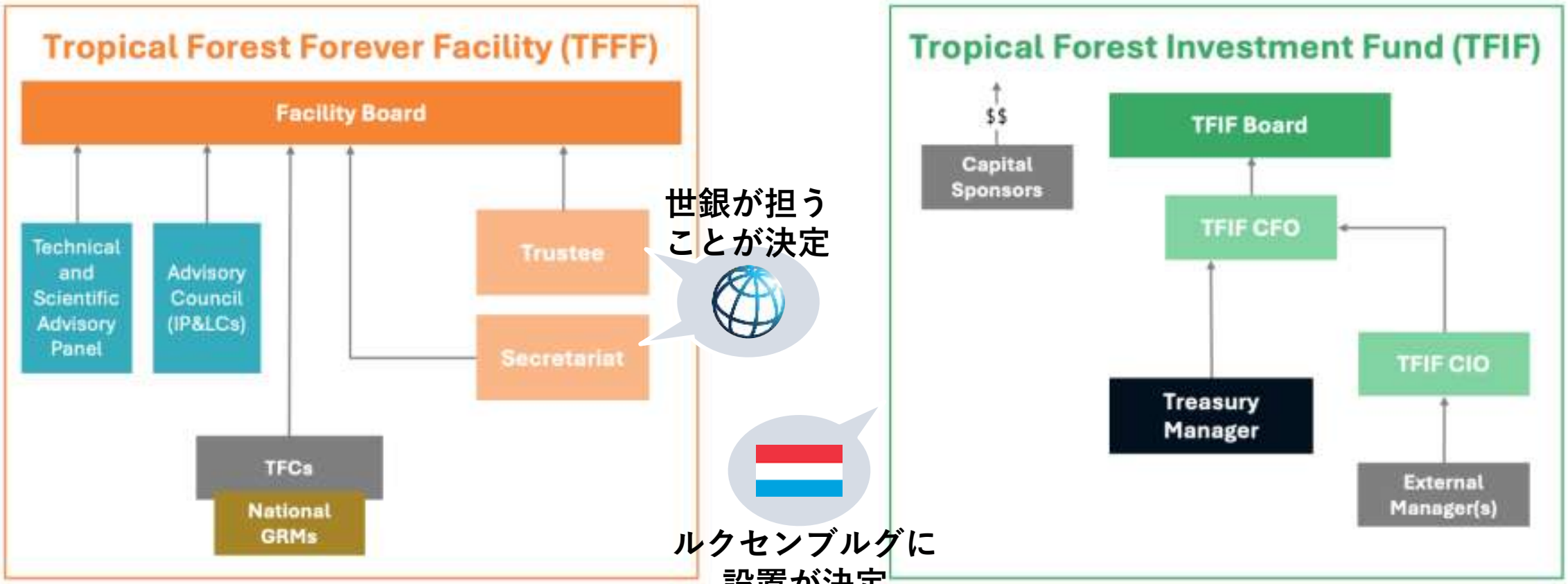
参考：TFFFにおけるガバナンス構造



TFFF （Tropical Forest Forever Facility）	TFIF （Tropical Forest investment Fund）
• ルールの策定（支払いの条件・ガバナンス／透明性・モニタリング制度・IPLC保護） • モニタリング・報告書の取り纏め（各国（＝TFCs）が提出する森林保全状況のレビュー） • 各国への支払い実行（Forest Paymentsの実施）	• 基金としての資金プール（スポンサー出資（出資型資本）＋機関投資家向け債券（シニアデット）によるファイナンス） • 投資ポリシーに基づく投資活動（負の除外リスト（＝Negative Exclusion List）などのESG基準に基づく投資） • 支払い原資の送金（再投資のリターンから債務返済・運営費を除きTFFFへ送金）

出典：TFFFコンセプトノートv3.1より転載しWWFジャパンにて一部改変

参考：TFFFおよびTFIFの構造



出典：TFFFコンセプトノートv3.1より転載しWWFジャパンにて一部改変

TNFD×パーム油　ベンチマーク調査報告書



詳細はこちらから
https://www.wwf.or.jp/activities/lib/6387.html

調査対象 27社

（伊藤忠商事、植田製油、花王、J-オイルミルズ、日清オイリオグループ、不二製油、三井物産、ミヨシ油脂／アサヒグループHD、味の素、ADEKA、イオン、カネカ、カルビー、キリンHD、コーセー、資生堂、すかいらーくHD、セブン＆アイHD、ゼンショーHD、東洋水産、日清食品HD、フジパングループ本社、明治HD、山崎製パン、ライオン、ロッテ、以上株式会社省略）

調査目的

①開示状況の把握、②実務対応の把握、③今後の方向性提示

■パーム油は、森林破壊や土地利用変化と関連が深く、自然関連リスクを考える上で重要
■ポイント①TNFD対応の進展により、開示は増加傾向にある
■ポイント②トレーサビリティ不足が最大のボトルネック
■ポイント③開示と実務対応のギャップ

➡開示の増加＝取組みの進展、とは限らない
➡「何を開示しているか」だけでなく、「何を実行しているか」を確認する必要がある

出典リスト

P.3	IRENA (2026) Transitioning away from fossil fuels: A roadmap powered by renewables, electrification and grid enhancement
P.4	https://unfccc.int/sites/default/files/resource/cma5_auv_4_gst.pdf
P.5	https://www.government.nl/site/binaries/site-content/collections/documents/2026/06/23/report-1st-conference-on-transitioning-away-from-fossil-fuels/santa-marta-taff-report-june.pdf
P.7	Lawrence, D., Coe, M., Walker, W., Verchot, L., & Vandecar, K. (2022). The Unseen Effects of Deforestation: Biophysical Effects on Climate. Frontiers in Forests and Global Change, 5, Article 756115. https://doi.org/10.3389/ffgc.2022.756115
	Friedlingstein, P., O'Sullivan, M., Jones, M. W., et al. (2025). Global Carbon Budget 2024. Earth System Science Data, 17(3), 965–100. https://doi.org/10.5194/essd-17-965-2025
	IPCC, 2023: Climate Change 2023: Synthesis Report. Contribution of Working Groups I, II and III to the Sixth Assessment Report of the Intergovernmental Panel on Climate Change [Core Writing Team, H. Lee and J. Romero (eds.)]. IPCC, Geneva, Switzerland, 184 pp. https://doi.org/10.59327/IPCC/AR6-9789291691647
P.8	https://forestdeclaration.org/wp-content/uploads/2026/10/Assessment2026.pdf
P.9	https://unfccc.int/sites/default/files/resource/cma5_auv_4_gst.pdf
P.10	https://www.fao.org/forestry/committee-on-forestry/world-forest-week-side-events/cop30-roadmap/en
P.11	WWFジャパン（2026年9月）「ネイチャーポジティブに向けたパーム油調達におけるTNFD開示ベンチマーク調査」 https://www.wwf.or.jp/activities/lib/6387.html
P.12	https://tfffwatch.org/investment-tracker/Norway
P.15	https://www.reuters.com/sustainability/cop/brazil-invest-1-billion-global-forest-fund-sources-say-2025-09-23/
P.15-17	https://tfff.earth/wp-content/uploads/2025/10/TFFF-Concept-Note-3.1.pdf